

2006年度協会賞審査結果について

私立大学図書館協会会長校
中央大学図書館
館長 古城 利 明

1. 文教大学図書館（藤倉恵一氏）

『図書館のための個人情報保護ガイドブック』

本件につきましては、2007年3月1日開催の2006年度第1回協会賞審査委員会にて審議された結果が2007年3月2日開催の2006年度第2回東西合同役員会に答申され、協議いたしましたところ、2006年度協会賞に『採択』と決定いたしました。

[採択の理由]

1. 個人情報保護は、図書館にとって重要な意味をもっており、法律が施行された時期はかなりの混乱がみられた。このガイドブックは、個人情報の扱いについて考えられるケースごとに平易な言葉でわかりやすく解説しており、啓蒙的なガイドブックとしてよくまとめあげられている。図書館員に役立ち、かつ図書館員育成にも活用できるであろう。
2. 個人情報保護と図書館に関する類書がないことから、このガイドブックの持つ意義を評価できる。
3. 「申し合わせ事項」の採択可否のポイントの（オ）に該当する。

2. 同志社大学総合情報センター（井上真琴氏）

『図書館に訊け！』

本件につきましては、2007年3月1日開催の2006年度第1回協会賞審査委員会にて審議された結果が2007年3月2日開催の2006年度第2回東西合同役員会に答申され、協議いたしましたところ、2006年度協会賞に『採択』と決定いたしました。

[採択の理由]

1. 図書館研究という内容ではないが、レファレンス担当者としての知識と経験とに裏づけされた基礎の上に、利用者側の立場に立って具体例を挙げて図書館の利用法をまとめていることは、図書館というものを知ってもらう上で評価できる。話ことばで読み物としても面白く書かれてあるので、利用者にとって概説的な入門書としても有効である。
2. 発刊以来刷りを重ね、（5刷）2万部を印刷発行していることは、一般的にも評価されている証であるといえる。その中で、モノよりヒトが大事という意味のことが書かれているが、デジタル化されていく社会における図書館員がどのような役割を果たしていくべきかが問われる時代で、一對一のサービスを重視することは、図書館員がめざすべき一端を示唆している。図書館の役割を大学生や一般市民に対して広報をしたことに対する貢献が大きい。
3. 「申し合わせ事項」の採択可否のポイントの（ウ）（オ）に該当する。

3. 明治学院大学図書館

『「和英語林集成」デジタルアーカイブス』

本件につきましては、2007年3月1日開催の2006年度第1回協会賞審査委員会にて審議された結果が2007年3月2日開催の2006年度第2回東西合同役員会に答申され、協議いたしましたところ、2006年度協会賞に『採択』と決定いたしました。

[採択の理由]

1. 明治学院大学の創始者であるヘボンの著作のアーカイブ化にあたって、資料を所蔵している明治学院図書館にふさわしい内容の「成果物」として、大学図書館としてやるべき事（資料の公開）を行っているという点で評価できる。
2. アーカイブの主たる中身である「和英語林集成」の初版から三版の全てをデジタル化し公開しているだけでなく、関連辞書年表や、他の明治期辞書の目録、および歴史的な解説など、システム構築上の工夫が見て取れ評価できる。しかし、アーカイブ化そのものに価値がある訳ではなく、検索方法等システム的には不十分な点もあり、推薦理由の「将来的なモデル」と自負されていることには同意できない。
だが、現時点の成果については、その先駆性において一定の評価が出来る。
3. 「申し合わせ事項」の採択の可否ポイントの（ア）に該当する。

なお、2006年度協会賞に採択されました3件の関係者は、私立大学図書館協会第68回総会（2007年9月6日 於：立教大学）において表彰されます。